



千葉 雅也 講師

【ちば まさや】

1978年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻(表象文化論) 博士課程単位取得満期退学、パリ第10大学およびエコール・ノルマル・シュペリウールに留学。専門は現代哲学、表象文化論(美術、音楽、文学)。

- 近代社会哲学
- 現代思想
- 外書講読(フランス語)

哲学は〈不良なコドモ〉の思考である

僕は、哲学をベースとして、芸術やサブカルチャーについて幅広く考察しています(表象文化論という研究)。本校では、「近代社会哲学」、「現代思想」、フランス語の「外書講読」を担当しています。いずれの授業でも、社会や文化について哲学的に考えなおす、ということをやっています。しかし、哲学的に考えなおすってどういうこと? とにかく、常識をいったん徹底的に疑うことです。これ、とても危険なことかもしれない。すべてをシリアスに疑ったら、生活できなくなってしまうかもしれない……。デカルトは『哲学原理』のなかでこう述べています。一方で「真理を探究するには、一生に一度は、すべてのことについてできるかぎり疑うべきである」。他方で、「しかしその間、この疑いは実生活に及ぼされるべきではない」。つまり、徹底した疑いと実生活は、いったん切り離そうというわけです。でも、そうだとしたら、哲学は、結局のところ、実生活とは関係がないのか。それは誤解です。僕は、デカルトの言葉を少し変更したい。徹底した疑いを、実生活に及ぼすことを急いではいけなく、というふうな。哲学を、実生活にじっくり効かせていくのです。世間には、どうしてこんなことになるのかと首をかしげざるをえない「抑圧的」な仕組みがたくさんあります。哲学は、そうしたことを「まあいいか」と流さずにきちんと考えなおし、みんながもっと楽しく共生していけるようになるための、基礎的な学問の一つです。「革命」なんて言うのと大げさで暴力的な感じですから、僕としては、哲学的に考えることで世界をよりおもしろい方向へ変形する、というふうに言いたいですね。デカルトが言う「一生に一度は」というのは、今の日本だったら、まさしく大学時代です! 僕の授業は、細かいことを色々覚えさせる授業ではありません。哲学は、〈不良なコドモ〉の思考です。おそらく誰もがチョットは隠している、〈世間様の命令にヘコヘコ従うことができない不良なところ〉を、きっちり理論武装できるように、僕がガイドいたします。

千葉雅也先生の専門は哲学です。哲学というと「自分の生活とは関係ないなあ」なんて思ってしまうんですけど、少なくとも千葉先生の講義はそんなことない。大学の講義が初めて「楽しい」と思えたり、こんなに「刺激的」な講義は他にない。

受講生

受講生のひとこと

